

健康メモ

「PSA検査」って知っていますか？

中区医師会理事
中電病院泌尿器科部長 三田 憲明

高齢化、食生

活の欧米化の影響もあって、わが国でも前立腺

がんの患者さん

は増え、死亡数も年々増加しています。

「PSA」は「前立腺特異抗原」といって前立腺の組織だけが作り出すたんぱく質で、前立腺から血液の中に放出されます。健康な状態でも血液中に存在しますが、前立腺がんがある場合には数値が高くなります。「PSA検査」はわずかな血液から



前立腺がんを発見することができる簡単な検査なのです。

前立腺は男性だけにある生殖器官で、膀胱の下にあって、その中心を尿道が通っています。前立腺は男性ホルモンの影響を受けている臓器で、加齢に伴って男性ホルモンのバランスが崩れてくると、前立腺の尿道に近い部分が肥大し、尿道を圧迫し尿の勢が悪くなるなどの症状を引き起こします。これが前立腺肥大症です。一方、前立腺がんの場合は尿道から離れた場所にがんができることが多く、初期にはほとんど症状が現れません。「尿が出にくい」といった排尿のトラブルが現れるのは、がんがかなり進行して尿道を圧迫するほど大きくなってからです。骨にがんが転移し、腰痛から前立腺がんが見つかるとあります。ですから、症状が出る前の早い段階でがんが発

見されれば、がんが広がっている可能性が低くなります。やはり早期発見が第一です。

前立腺がんは六〇歳以上の男性に多くみられますが、早期発見のためには五〇歳ぐらいから定期的にPSA検査を受けられることをお勧めします。PSA検査は泌尿器科・内科などの医療機関や人間ドックでも受けることができます。ただし、PSA検査で異常が出たからといって、必ずがんであるとはかぎりません。前立腺炎や前立腺肥大症でも高くなる場合があります。PSA値が高い場合は泌尿器科専門医を受診して、がんかどうかを確認することが大切です。五〇歳を過ぎたら、一年に一度はPSA検査を。

